

本を読むことの愉しさ、深さ、おそろしさ

(全3回)

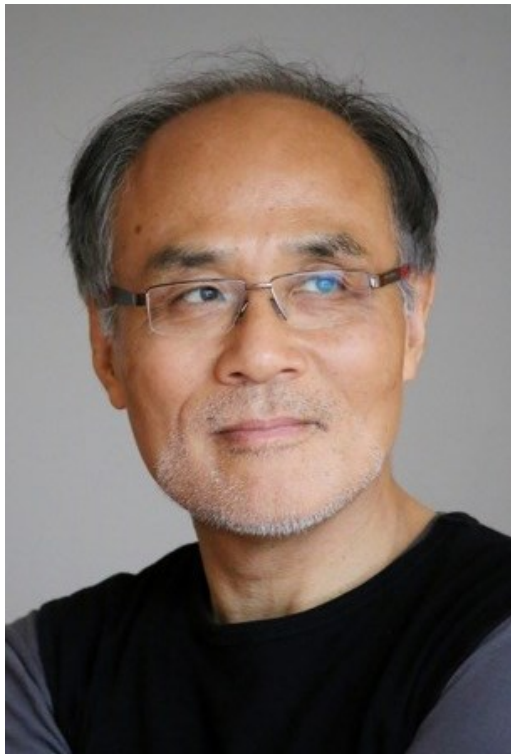
第1回

まち

「若者よ、都市を捨てて、本を読もう

— いま、寺山修司を回転させる —

若者へ「書を捨てよ、町へ出よう」と、寺山修司が激しい言葉を投げつけたのが1967年。それから半世紀の時間が流れ、若者はいま「インターネット」という都市（まち）のなかに住みついて、書を顧みることますます稀です。だが「インターネット」には「情報」という無時間なものが溢れているだけ。しかし、本の頁をあけると、そこからは「生きた時間」の香りが立ち昇ります。そのように、寺山修司の「生きた時間」の輝きをつかみ取ろうと、— みなさんといっしょに— 試みます。



小林康夫 (青山学院大学特任教授)

1950年、東京都生まれ。表象文化論。現代哲学。東京大学大学院総合文化研究科教授を経て、現在、青山学院大学総合文化政策学研究科特任教授。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。パリ第10大学博士号（記号学）取得。著書に『起源と根源』『表象の光学』『歴史のディスコンストラクション』『存在のカタストロフィー』（以上、未来社）、『君自身の哲学へ』（大和書房）ほか多数。編著に『知の技法』シリーズ（東京大学出版会）など。

日時：2016年 **1月20日(水)**

18:30～20:00(18:00 受付開始)

会場：日比谷図書文化館 B1 コンベンションホール (200名)

参加費：500円

(千代田区民及び学生無料。千代田区内在住者および学生無料。住所の確認できるもの、学生証等をお持ちください)

主催：公益財団法人 上廣倫理財団 <http://www.rinri.or.jp>

共催： 千代田区立
日比谷図書文化館
Hibiya Library & Museum

<http://hibiyal.jp>

日比谷カレッジ 